ミシュカの森とは…

「ミシュカの森」は 2000 年末に、 幼い姪と甥を含む妹一家 4 人が突然命を奪われた「世田谷事件」追悼の催しです。「ミシュカ」とは姪と甥が可愛がっていた小さなぬいぐるみの名前で、私が創作した喪失と再生の絵本「ずっとつながってるよ～こぐまのミシュカのおはなし～」の主人公。 こぐまの「ミシュカ」は再生のシンボルとして、 この会の名称となりました。

事件解決を願い、 事件を風化させてはならないという遺族としての強い思いが発端のこの集い。 事件後から大震災を経て、 現在に至るまで、 悲嘆にまつわる多方面の社会活動に携わる中で、 当事者だけを囲い込んで、 悲しみを背負わせてはならない、 と感じるようになったのです。

当事者以外の人が「あの人たちの悲しみは自分には関係ない」と無視したり、 どう関わっていいかわからず、 罪悪感を抱きつつも、 見ないふりをしてしまわないためには、 どうすればいいか？ 様々な苦しみや悲しみに向き合い、 共感しあえる場をつくることで、「ミシュカの森」を犯罪や事件とは直接関係ない人たちにも意味のある催しにしたい。

この願いは、 柳田邦男氏や日野原重明氏、 上智大学の先生方のお力添えにより、 次第に共感の輪を広げていきました。 現在、 広く人権を、 さらには生と死の問題を考える端緒として、「ミシュカの森」が回を重ねていることに心より感謝しております。 これまでご登壇いただいたゲストは、 柳田邦男さん（作家）・日野原重明さん（医師）・末盛千枝子さん（「3.11 絵本プロジェクトいわて」代表）・評論家の若松英輔さん（三田文学編集長）ほか多数にのぼります。 励ましと繋がりを糧に、 共感と共生に満ちた社会を少しでも実現できたらと願ってやみません。

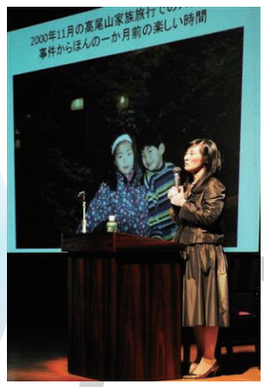
今年お迎えする副島賢和先生は、 亡き妹と私が生まれ育った旗の台の「さいかち学級」の先生。 私に悲しみの意味を教えてくれた大切な方です。

先生からのあたたかくしなやかなメッセージをお届けしたいと思います。　入江杏

入江 杏の著作紹介

「悲しみを生きる力に～被害者遺族からあなたへ」（岩波書店）・絵本「**ずっとつながってるよ～こぐまのミシュカのおはなし～**」（くもん出版）・「**この悲しみの意味を知ることができるなら～世田谷事件・喪失と再生の物語～**」（春秋社）・著に「**マスコミは何を伝えないか～メディア社会の賢い生き方**」（岩波書店）・「**連続授業　命と絆は守れるか～震災・貧困・自殺からDVまで**」（三省堂）・「**死ぬ意味と生きる意味～難病の現場から見る終末医療と命のあり方**」（上智大学出版）ほか

最新刊　岩波ジュニア新書（岩波書店）
「悲しみを生きる力に～
被害者遺族からあなたへ」



各地で講演する入江杏
（写真は上智大学グリーフケア研究所での公開講座）

最新刊　岩波ジュニア新書（岩波書店）
「悲しみを生きる力に～
被害者遺族からあなたへ」について

柳田　邦男　氏より一

「喪失体験者の魂から発せられた、人間が生きる意味を根源から問いかける広く読まれるべき人生論の書」

写真：世田谷区での「ミシュカの森」は柳田邦男氏による基調講演「悼む心つながるいのち」開催の様子。

司会
近藤麻智子

フリーアナウンサーとして活動する傍ら、小児病棟などでの絵本の読み合い活動を始める。絵本セラピスト資格を取得し、大人のための絵本セラピーのワークショップ『絵本のち晴れ』を主宰。現在、東京 MX テレビ『TOKYO MX NEWS』でニュースキャスターを務める。